

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年1月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4091600074
法人名	株式会社 楓
事業所名	グループホーム 市の上
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市合川町1754-1 (電話) 0942-32-1058
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年12月12日

## 【情報提供票より】(平成20年10月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 5月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	21 人 常勤 14人, 非常勤 7人, 常勤換算 14.5人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	108,930~111,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 ( 円 )	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 ( 100,000 円 )	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年10月25日現在)

利用者人数	17 名	男性	8 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	60 歳	最高	101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふじもと医院、立山歯科
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市の中心に近く、新しく開けた商業施設の多い場所に立地し、近くには大きな公園や公共の施設、ショッピングセンターなどがある。建物は耐震・耐火の鉄筋2階建てで、地域の避難施設として指定され、明るい室内はシックハウス対策も施されている。平成18年5月、「自分が利用したいホーム」として数名の有志の方々により開設されている。利用者の思いやペースを大切に「出来ること探し」を行い、昔の自分と自信を取り戻し、心穏やかに安心して暮らせるよう取り組んでいる。良きつながりが残る地域の中で地域に根ざしたホームとして、入居者の安心と自立のため、在宅復帰も考えた利用者中心の介護を行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価は朝礼や職員会議の中で報告があり、運営推進会議にも報告されている。指摘された項目は各種委員会で話し合い、職員会議で検討を行い改善がなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員が分担して記入し、全職員で話し合いを行い、管理者がとりまとめを行った。日常業務を振り返り、マニュアルの整備や職員のケアの統一に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は市役所職員、地区自治会長、民生委員、近隣代表、家族会役員、施設長、管理者、リーダー、会社役員などが出席して開催されている。ホームの入居者の状況や行事、事故報告等を行い、外部評価の報告もなされている。家族の意見や地域からの情報提供と協力申し出等があり、自治会を通じて災害訓練へ地元消防団の協力もいただけるようになった。また関係機関とは日頃から連絡を取り合い、必要に応じて相談を行い助言を受けている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>毎月の請求書送付時に、便りや職員の手紙で近況報告を行う。面会時に担当やリーダーから日頃の様子を伝え、家族の意向を聞き取る。受診の前後も連絡や報告を行っている。玄関にはご意見箱を設置している。また、家族会を開催して役員が意見や苦情を取りまとめている。出された意見は職員会議や運営会議で検討し、ホームの運営や提供サービスの見直しを行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会に加入し、地域の情報提供や催し物の誘いを受け、地元の祭りや運動会見学に出かけている。また職員が老人会の勉強会に講師として出席したり、清掃活動に参加し、介護の相談にも応じている。また、ホームは災害時には地域の避難場所として、地域に解放されることになっている。</p>

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初から、地域に根づいたホームとして「であいふれあい みとめあい」という運営理念を掲げている。理念の中に地域という言葉はないが、利用者の力を引き出し、在宅復帰も視野に入れた利用者中心の理念を作り上げている。	○	地域に根ざしたホームとして、地域の協力を得ながら利用者本位の自立を目指すケアが行われているが、理念を見ると、地域密着としてのつながりが見えにくい。運営者、管理者、職員で話し合い、検討されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やフロアの見やすい所に掲げられ、毎朝職員は指差し唱和して意識を深めている。また、理念を更に具体化した交流とコミュニケーションをテーマとする6つの取り組みを定め共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、情報提供や催し物の誘いを受け、地元の祭りや運動会見学等に参加している。職員は老人会の勉強会に講師として出席したり、介護相談に応じている。また、ホームは災害時の地域の避難場所として解放するようになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は評価をホームケアの情報発信の機会と捉え、利用者や家族の幸せになるものと認識している。自己評価は職員が分担して記入し、管理者がとりまとめを行った。日常業務の振り返りやケアの統一、マニュアルの整備などに活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、近隣代表、家族会役員、行政の職員などの参加を得て年3回開催している。利用者の状況や行事、事故の報告等を行い、それぞれの立場から意見をいただいている。自治会を通じて地元消防団の協力も得られるようになった。しかし、利用者の参加はなく、開催回数も少ない。	○	家族会役員だけでなく利用者も交えて、2ヶ月に1回定期的に開催することが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から各公共機関と連絡を取り合い、利用者の紹介をしてもらっている。市役所の担当窓口相談に伺ったり、電話で助言を受けたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部講師を招いてホーム内で職員研修を行い、現在1名の利用者が活用している。家族には入居時のみ説明を行っている。	○	いつでも相談に応じられるようにパンフレット等を備え付け、家族への啓発を行い、制度への理解を深めてもらう取り組みが望まれる。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書送付時に、ホーム便りと担当職員が近況を記した手紙を同封している。また、領収書を添付した小遣い帳も送付している。家族の訪問時には担当職員や主任が生活状況を伝え、利用者に変化の生じた時はそのつど電話で報告を行っている。受診の前後も必ず連絡を取っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開き役員が意見や苦情の取りまとめを行う。玄関にご意見箱を設置し、家族の訪問時には話を聞くようにしている。職員の増員や居室の変更希望意見などが出され、運営会議や職員会議で検討し、サービス提供の見直しを行っている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃からユニットにこだわらず全職員が全利用者に対応できるようにして、異動による影響を少なくしている。利用者にはきちんと職員の退職説明を行い、退職者に花束を贈呈したり、利用者全員と写真撮影をしている。家族には便りなどで知らせている。新入職員には主任が指導を行い、介護の輪の中に溶け込めるようにしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、性別や年齢、資格などは問われない。休みの希望を取り入れた勤務シフトが生まれ、休みの変更も認めてもらえる。直接言いにくいことや悩み不安などは職員用目安箱に書いて入れている。昼休みも取ることができ、働きやすい職場環境づくりに努めている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内での勉強会や外部研修に参加して、何故人権なのか、人権の意味を理解するようにしている。職員が日常ケアの中で疑問や不安を感じる時に、随時に勉強会を開いている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニットに教育担当者を配置し、それぞれ職員のレベルにあった指導を行っている。希望する外部研修には勤務扱いで参加し、報告を行いケアの現場で実践している。またケアの中で気づきや意見を出し合い、サービスと資質の向上に努めるため、各種の委員会活動で職員を育てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に登録しており、研修会やボーリング大会などの催しには積極的に参加している。他のホームへ見学や実習に出かけたり、ヘルパーの実習生を受け入れている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅や病院へ訪問して、話をしながら情報を得たり、顔を覚えてもらったりしている。家族と共に見学に来て、雰囲気や職員・他の利用者の顔を知ってもらっている。本人や家族から得た生活習慣や趣味の情報をもとに、入居前にカンファレンスを行い、その方にあった馴染める方法を検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の関わりの中で家族として接し、人生の先輩としての尊敬の念を持っている。できる事探しをしていく中で、昔の話や料理の仕方、家事のやり方などの生活の知恵を学んでいる。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	記録をSOAP方式で書いているので、常に利用者の訴え(S)や利用者を観察したこと(O)などを大切にしており、日々の生活の中で利用者一人ひとりの思いや希望を把握できている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者制にしており、日々の記録や観察から担当者が素案をつくり、それをもとにカンファレンスを行って介護計画書を作成している。カンファレンスには施設長、ユニットリーダー、管理者、理学療法士等の関係者が参加するが、時には利用者や家族も参加して行われる。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標については3ヶ月、長期目標に関しては6ヶ月で介護計画の見直しをしている。特に褥そうについては、1ヶ月での完治を目標にしている。モニタリングしたことの記録がないために、見直された介護計画への連続性が見えない。	○	月に1回カンファレンスを行っている。きちんと介護計画の見直しを行っているので、書式の工夫をしてモニタリングをしたことが見えるようにすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の送迎をしている。家族の宿泊ができるように配慮している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の時点でホームに看護師がいること、24時間連携体制であること、ホームから受診の送迎をすること、受診後は報告をすること等を説明し同意を得て、協力医への変更をしている。ただ、特別な医療に関しては、入居前の病院を継続している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアを行ったことはないが、重度化や終末ケアをする方針は持っている。医療については利用者と病院、介護については利用者とホームで入居時に同意書を取っている。急変時のマニュアルを作成して備えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを損ねるような言葉かけをしないようにしている。入浴では同性介助をしている。記録等は普段使わない書類は鍵のかかるロッカーに保管し、日々記載する書類はカウンターの下戸棚に入れている。利用者や部外者の目に触れることはない。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日のプログラムはあるものの、その人のペースを非常に大切にケアをしている。また、多少時間がずれても、3度の食事は必ず食堂へ出てきて食べることにしている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は老人食業者から購入している。利用者は職員と一緒に下拵えや配膳・引き膳、片付け等をしている。食事は職員とともにテーブルを囲み、会話しながら食している。おやつ作りでは利用者と一緒に材料を買いに出かけ、利用者が作ることもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日はいる人、2日に1回の人、3日に1回の人がいる。それぞれ希望に沿って午後に入浴している。入浴を楽しんでもらうため入浴剤を入れたり、ゆず湯にしたりしている。入浴拒否の人には、時間を書いた入浴券を渡すなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	常にその人のできる事探しをして、役割や楽しみ事の支援をしている。そろばんやレシート貼り等の事務、畑の草取りや外の水撒き、トイレや居室の掃除、調理、縫物等々の役割を担っている。その人の誕生日には望まれることを個別にしたり、日帰りバスハイクに出かけ、楽しみや気晴らしの支援をしている。近くイルミネーションの見学を計画している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園や河川に散歩に出かけている。個別の散歩にもよく出かけ、近くの店に菓子や衣類の買い物に行ったり、一人ひとりのその日、その時の希望に沿って支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠をしていない。個別に出かける支援をしており、入居者にとって自由さがある。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署に来てもらい、消火や避難訓練を入居者と一緒に行っている。消防署より避難経路の指導を受けたり、地域の消防団にも来てもらっている。また夜間想定訓練も行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	老人食の食材を購入しており、食品のバランスは取れている。またそのカロリー計算も示されている。入居者の食事摂取量を記載し、職員は把握している。家族の差し入れもあるが、それらを踏まえて摂取の把握をしている。水分摂取量も概ね把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングは明るく、ゆったりとして落ち着いた雰囲気がある。玄関やリビングには季節の置物・飾り物・生花があり、ベランダの洗濯物や対面式の台所など季節感や生活感が見て取れる。2階のユニットにはリビングの一部に畳の間があり、テーブルといすを備えた図書コーナーがある。共用空間に自分だけの空間を確保できるよう、居心地よく過せる工夫をしている。職員の声やテレビの音も不快のないように配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはチェスト、ベッド、テレビ、椅子やテーブル、時計、花、加湿器等をそれぞれ自宅から持ち込んでいる。家族の写真を飾ったり、自分の作品を飾ったり、自分の部屋としてそれぞれ居心地良く過ごせるようにしている。</p>		